

表 9.8-10(3) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	タカ科						
種名	トビ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>情報不足（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>情報不足（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>—</td> </tr> </table>	全県	情報不足（繁殖）	大宮台地	情報不足（繁殖）	中川・加須低地
全県	情報不足（繁殖）						
大宮台地	情報不足（繁殖）						
中川・加須低地	—						
分布状況	留鳥として九州以北に普通に生息する。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 58.5cm、メス 68.5cm、翼開長 157～162cm。大型の猛禽類でカラスに比べてかなり大きい。全身赤味のある黒褐色で、翼の下面風切り羽の元の部分に白い斑がある。尾は凹型をしている。</p> <p>【主な生息環境】平地から高山にかけて市街地、海岸、湖沼等幅広い場所で見られる。</p>		 <p>確認環境</p>				
県内での生息状況	低地帯から低山帯に留鳥として生息する。利根川や荒川等の河川敷や広い農耕地などで多く見られるが、特に渡良瀬遊水地には多い。入間市、鴻巣市では繁殖が確認されており、現在は各地で増加傾向にあるが不明な点も多い。移動時期や冬季には低地でもよく見られている。						
現地確認状況	冬季：対象事業実施区域内及び対象事業実施区域外の上空を飛行する 1 例が確認された。						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(4) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	タカ科						
種名	オオタカ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	準絶滅危惧					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖・越冬）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）、準絶滅危惧2型（越冬）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖・越冬）</td> </tr> </table>		全県	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖・越冬）	大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）、準絶滅危惧2型（越冬）
全県	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖・越冬）						
大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）、準絶滅危惧2型（越冬）						
中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖・越冬）						
分布状況	留鳥として北海道、本州、四国、九州に分布し、南西諸島では冬鳥。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 50cm、メス 58.5cm、翼開長 105～130cm。オスは頭上から上面が暗青灰色。眉斑は白く明瞭で虹彩はオレンジ色。下面は白く黒褐色の細かい横縞がある。メスでは褐色味が強く虹彩は黄色い。幼鳥では全身が褐色で下面には縦斑がある。</p> <p>【主な生息環境】平地から山地の林や農耕地などに生息する。現在は市街地のさほど大きくない林で営巣するものもいる。</p>		 <p>確認環境</p>				
県内での生息状況	留鳥として平地から山地の林や農耕地、河川敷などに生息する。かつて、低地帯では冬季でも生息数が少なかったが、現在は低地帯の社寺林や屋敷林などで営巣するものが増えている。個体数は増加傾向にあるようだが、生息地の環境は必ずしも良くなっていない。						
現地確認状況	秋 季：対象事業実施区域外上空で、ハンティングを行う幼鳥 1 例が確認された。						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

表 9.8-10(5) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	ハヤブサ科			
種名	チョウゲンボウ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
	埼玉県	全県	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	
		大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	
		中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	
分布状況	【国内分布】留鳥として全国に分布し、本州で繁殖する。			確認個体
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 33cm、メス 38.5cm、翼開長 68～76cm。ハトくらいの大きさで尾が長い。上面は茶褐色で黒い斑がある。下面は淡い茶色で縦斑がある。オスは頭部が青灰色。</p> <p>【主な生息環境】本来の営巣地は絶壁等のくぼみである。採食環境として原野や草地等の開けた場所を好む。</p>			
県内での生息状況	1980年代頃より、低地帯の高架橋や取水塔のような人工建造物に営巣するようになり、市街地でもよく見られるようになった。さいたま市内のビルではかなり以前から繁殖しているのが知られている。冬季は河川敷や農耕地、草地等の開けた場所でよく見られる。			確認環境
現地確認状況	<p>【鳥類調査】</p> <p>繁殖期：対象事業実施区域内から対象事業実施区域外にかけての上空を飛行する 1 例が確認された。</p> <p>夏 季：対象事業実施区域外で、送電線鉄塔にとまる個体と綾瀬川上空を飛行する個体の計 2 例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域内の建物にとまる 1 例と、上空を飛行する 4 例が確認された。また、対象事業実施区域外のテニスコートのフェンスにとまる 1 例が確認された。</p> <p>冬 季：対象事業実施区域外の南東側上空を飛行する 1 例が確認された。</p> <p>【猛禽類調査】</p> <p>第 1 回：対象事業実施区域内で 17 例、対象事業実施区域外で 17 例、計 19 例が確認された。繁殖に係わる行動として、交尾が 2 例（1 ペア）、爪合わせディスプレイが 2 例（1 ペア）確認された。</p> <p>第 2 回：対象事業実施区域内で 1 例、対象事業実施区域外で 2 例、計 2 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>第 3 回：対象事業実施区域内で 1 例、対象事業実施区域外で 1 例、計 1 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>第 5 回：対象事業実施区域内で 2 例、対象事業実施区域外で 3 例、計 3 例が確認された。テニスコート上空でハンティングが 1 例確認された。</p> <p>第 6 回：対象事業実施区域外で 2 例が確認された。綾瀬川周辺の農地でハンティングが 1 例確認された。</p> <p>なお、第 4 回猛禽類調査では確認されなかった。</p>			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(6) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	クイナ科							
種名	クイナ							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	—						
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（越冬）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（越冬）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（越冬）</td> </tr> </table>	全県	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）	大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）	中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）
全県	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）							
大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）							
中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）							
分布状況	北海道から本州北部では夏鳥として繁殖し、本州中部以南に冬鳥として渡来する。		確認個体					
形態・生息場所	<p>【形態】全長 28～29cm、翼開長 38～45cm。上面が褐色で黒い縦斑がある。顔から胸は青灰色、腹には黒の縞模様がある。嘴は長く冬は黒いが繁殖期には赤くなる。</p> <p>【主な生息環境】湖沼や河畔などの水辺や湿地に生息する。</p>							
県内での生息状況	県内には、低地帯から台地・丘陵帯の湖沼や河川、休耕田、ヨシ原などの湿地に冬鳥として渡来する。現在は湿地の埋め立て等により生息適地が減ったことから減少傾向にある。旧忍川（行田市）のヨシ原では繁殖期にあたる時期（2015年5月～7月）の観察記録がある。							
現地確認状況	春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の川岸で1例が確認された。							

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

表 9.8-10(7) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	クイナ科		
種名	バン		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	全県 準絶滅危惧 2 型（繁殖） 大宮台地 準絶滅危惧 2 型（繁殖） 中川・加須低地 準絶滅危惧 2 型（繁殖）	
分布状況	留鳥として、全国に分布するが、北海道のものは冬に南へ移動する。		確認個体
形態・生息場所	<p>【形態】 全長 30～38cm、翼開長 50～55cm。ハトより大きく全身黒色で夏は嘴から額が赤色になる。嘴の先端は黄色い。脇に白斑があり下尾筒は白色で後ろから見るとよく目立つ。</p> <p>【主な生息環境】 河川、休耕田、池沼などのヨシ原に生息する。水かきはないが水面をよく泳ぎ時々足をだらんと下げて飛ぶ姿も見られる。</p>		
県内での生息状況	低地帯を中心に繁殖しているが減少傾向にある。荒川以西の低地及び台地・丘陵帯においても少数の繁殖記録がある。		確認環境
現地確認状況	繁殖期：対象事業実施区域外の綾瀬川で計 2 例が確認された。 秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の 3 箇所、川を泳ぐ計 3 例が確認された。 冬 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の川岸で休息する 2 例が確認された。 春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川で 1 例が確認された。		

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(8) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	クイナ科			
種名	オオバン			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
埼玉県	全県	準絶滅危惧 1 型（繁殖）		
	大宮台地	準絶滅危惧 1 型（繁殖）		
	中川・加須低地	準絶滅危惧 1 型（繁殖）		
分布状況	主に本州中部以北で繁殖し、冬は暖地に移動する。		確認個体	
形態・生息場所	<p>【形態】全長 36～39cm、翼開長 70～80cm。全身黒色で嘴から額が白い。足には水かきがある。</p> <p>【主な生息環境】湿性植物がよく茂る河川や湖沼に生息するが、広い水面のある環境を好む。</p>			
県内での生息状況	かつては飛来数は多くなかったが、現在では越冬する個体数が増加傾向で、普通に見られるようになった。山間のダム湖や溜池にも生息する。彩湖（戸田市）や芝川第一調節池（さいたま市）、福川（行田市）、利根大堰上流部（行田市）などでは繁殖が確認されている。			
現地確認状況	<p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の川岸で休息する 1 例が確認された。</p> <p>冬 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森で採餌や休息する計 2 例と、戸塚綾瀬小学校東側の綾瀬川や川岸で採餌、休息する 44 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の川岸で採餌する 2 例が確認された。</p>			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(9) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	シギ科							
種名	イソシギ							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	—						
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）</td> </tr> </table>		全県	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）	大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）	中川・加須低地
全県	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）							
大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）							
中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）							
分布状況	北海道から九州で繁殖。中部地方以北では夏鳥、他の地方では留鳥。							
形態・生息場所	<p>【形態】全長 19～21cm、翼開長 38～41cm。頭部から上面は褐色で下面は白い。胸の脇から翼の付け根に白い部分が食い込んでいる。</p> <p>【主な生息環境】河川、湖沼、海岸、干潟、河口等に生息する。</p>							
県内での生息状況	河川や湖沼などに留鳥として生息する。利根川や荒川などで繁殖するが、現在は夏季の生息数が減少し、繁殖地は局所的となっている。春秋の渡り期には休耕田にも飛来する。		確認環境					
現地確認状況	<p>冬 季：対象事業実施区域外の水田横の水路で採餌する 1 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川と支流との合流部で 1 例が確認された。</p>							

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(10) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	シギ科							
種名	タシギ							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	—						
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>地帯別危惧（越冬）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（越冬）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（越冬）</td> </tr> </table>		全県	地帯別危惧（越冬）	大宮台地	準絶滅危惧 2 型（越冬）	中川・加須低地
全県	地帯別危惧（越冬）							
大宮台地	準絶滅危惧 2 型（越冬）							
中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（越冬）							
分布状況	冬鳥あるいは旅鳥として全国に渡来する。		確認個体					
形態・生息場所	<p>【形態】全長 25～27cm、翼開長 44～47cm。長い嘴を持ち全身茶色で上面に黄白色の線が左右 2 本ずつある。飛び立つときに「ジェーッ」と濁った声を出すことが多い。</p> <p>【主な生息環境】水田、河川、湖沼などの湿地。</p>		 <p>確認環境</p>					
県内での生息状況	県内には冬鳥として渡来し、水田、河川、湖沼などの湿地に生息する。かつては各地の湿地に普通に生息していたが、湿地の埋め立てや圃場整備に伴い冬季に水田の乾燥化が進んだことなどにより生息適地が減ったため数を減らしている。							
現地確認状況	冬 季：対象事業実施区域外のクワイ畑で 1 例が確認された。							

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(11) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	カモメ科							
種名	コアシサシ							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	絶滅危惧Ⅱ類						
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>絶滅危惧ⅠA類（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>絶滅危惧ⅠA類（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>絶滅危惧ⅠA類（繁殖）</td> </tr> </table>		全県	絶滅危惧ⅠA類（繁殖）	大宮台地	絶滅危惧ⅠA類（繁殖）	中川・加須低地
全県	絶滅危惧ⅠA類（繁殖）							
大宮台地	絶滅危惧ⅠA類（繁殖）							
中川・加須低地	絶滅危惧ⅠA類（繁殖）							
分布状況	北海道、本州、四国、九州、南西諸島に渡来して繁殖する。		確認個体					
形態・生息場所	<p>【形態】全長 22～28cm、翼開長 47～55cm。翼と尾羽が長くスマートな体型であり、はためくような特徴的な飛び方をする。夏羽では額は白く頭部は黒色で嘴は黄色で先端が黒い。体上面は青灰色で下面は白く足はオレンジ色である。冬羽では前頭部まで白くなり嘴と足は黒くなる。</p> <p>【主な生息環境】海岸、干潟、湖沼、河川等で魚を採餌し、その周辺で休息する姿が見られる。公園の池や養殖場などで採餌することもある。海岸、中洲、造成地、大規模駐車場など見通しのよい広い砂地や砂利混じりの裸地でコロニー（集団繁殖地）を作り繁殖する。</p>		 <p>確認環境</p>					
県内での生息状況	<p>県内各地の湖沼、河川、水路等によく見られ、利根川流域では毎年の中洲で繁殖しているが、2016年は1ヶ所だけとなった。1996年以降、大規模造成地や駐車場などでの営巣が確認されているが、安定的に繁殖している場所はほとんどない。また、営巣地に草木が伸びてくると繁殖しなくなる。2014年以降では春日部市、越谷市、さいたま市、羽生市などの造成地、駐車場等で繁殖が確認されている。</p>							
現地確認状況	<p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川上空を飛行する計2例が確認された。</p>							

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

表 9.8-10(12) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	カワセミ科			
種名	カワセミ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
埼玉県	全県	地帯別危惧（繁殖）		
	大宮台地	絶滅のおそれのある地域個体群（繁殖）		
	中川・加須低地	絶滅のおそれのある地域個体群（繁殖）		
分布状況	全国に留鳥として分布している。			
形態・生息場所	<p>【形態】全長 17cm。上面がコバルトブルーで下面は橙色。メスの下嘴は赤い。</p> <p>【主な生息環境】河川、湖沼、小川、用水などの水辺で見られる。土の崖に嘴で巣穴を掘る。水辺に繁殖適地がないと、人が掘った穴の側面や残土等の土盛に巣を作ることがある。</p>			
県内での生息状況	<p>県内の低地帯から低山帯にかけての河川・池沼に周年生息しており、小魚や小さいザリガニ、エビなどを捕らえる。かつては水質悪化のため都市近郊でいなくなったが、水質改善と共に都市河川でも姿がよく見られるようになり繁殖もしている。</p>			確認環境
現地確認状況	<p>繁殖期：対象事業実施区域外の綾瀬川で、飛行する 1 例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬川で、飛行する 1 例と川岸の低木にとまり探餌する 1 例の計 2 例が確認された。</p> <p>冬 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の川岸にとまる 1 例と、綾瀬川東側の水路にとまる 1 例、戸塚環境センター北側の排水路沿いにとまる雌雄 2 例の計 4 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森付近を飛行する 1 例、綾瀬川で飛行する 1 例、戸塚環境センター北西側の排水路沿いにとまる 1 例が確認された。また、戸塚環境センター北側の排水路沿いの水抜き穴 3 箇所において、営巣が確認された。</p>			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(13) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	ヒタキ科						
種名	ウグイス						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>地帯別危惧（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>—</td> </tr> </table>	全県	地帯別危惧（繁殖）	大宮台地	—	中川・加須低地
全県	地帯別危惧（繁殖）						
大宮台地	—						
中川・加須低地	—						
分布状況	全国的に繁殖する留鳥。秋冬には山地や北部のものは平地や暖地に移動する漂鳥でもある。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長 14～16cm。オスの方が大きい。体の上面は暗緑色、尾は赤褐色味が強い。灰白色の眉斑が特徴。</p> <p>【主な生息環境】下生えの多い林、ササやぶ、草地、ヨシ原、林縁の茂み等にすみ、市街地や公園や庭の植え込みや生垣にもいる。低木の枝の茂み、ススキの株の中、ササやぶの中などの低い場所に、ササやススキなどのイネ科植物の葉を使って巣をつくる。</p>		 <p>確認環境</p>				
県内での生息状況	かつて県内では主に台地・丘陵帯から山地帯・亜高山帯にかけて普通に繁殖し、低地帯においては比較的規模の大きい樹林地や荒川、利根川、江戸川等の河川敷に発達したヨシ原等で少数が繁殖するという生息状況であった。しかし、現在は台地・丘陵帯の林の手入れが行き届かなくなったことで下層植生が本種の生息に好適なものとなり、増加する傾向にある。また、低地の林等でも増加の傾向がみられる。その反面、低山帯から亜高山帯ではニホンジカの採食影響によって森林の下層植生であるスズタケ等の減少が著しく、営巣地が喪失したことにより減少傾向にある。						
現地確認状況	冬 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の岸辺で 1 例が確認された。						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(14) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	ヒタキ科							
種名	オオヨシキリ							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	—						
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> </table>		全県	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	中川・加須低地
全県	準絶滅危惧 2 型（繁殖）							
大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）							
中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）							
分布状況	夏鳥として全国に渡来してヨシ原で繁殖する。		確認個体					
形態・生息場所	<p>【形態】全長 18～19cm。上面はオリーブ褐色。下面はクリーム白色。口内は鮮やかなオレンジ色。</p> <p>【主な生息環境】河川、湖沼、休耕田等のヨシ原。</p>		 <p>確認環境</p>					
県内での生息状況	県内では低地帯のヨシ原を中心に繁殖している。現在は繁殖地である河川敷のヨシが外来種のオオブタクサやアレチウリ等に圧迫され減少しているため、一部に生息数の著しい減少がみられる。							
現地確認状況	<p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の草地で、幼鳥 1 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川のヨシ原等 3 箇所計 3 例が確認された。</p>							

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(15) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	ホオジロ科						
種名	ホオジロ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>地帯別危惧（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> </table>		全県	地帯別危惧（繁殖）	大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）
全県	地帯別危惧（繁殖）						
大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）						
中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）						
分布状況	九州以北で繁殖し、冬季には暖地へ移動する留鳥あるいは漂鳥。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長 16.5cm。オス成鳥は眉と顎が白く挟まれた頬が黒い。メス成鳥と若鳥は黒い部分が褐色となる。胸は全面茶褐色で、尾羽の外側が白い。</p> <p>【主な生息環境】林縁の藪、植木畑周辺、河川敷の灌木等で繁殖するが、低地帯で繁殖に適する環境が減少している。冬は河川敷等で草本類の種子を採食しているところがよく見られる。</p>						
県内での生息状況	県内では低地帯から山地帯まで留鳥として広く分布するが、現在は特に県南部の荒川沿いや見沼田圃等の低地での繁殖が少なくなっている。						
現地確認状況	<p>繁殖期：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷でさえずる計 2 例が確認された。</p> <p>夏季：対象事業実施区域外の低木で 1 例が確認された。</p> <p>秋季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷と、戸塚綾瀬小学校の南側の草地で、計 2 例が確認された。</p> <p>冬季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の草地と、綾瀬川東側の水田で、計 2 例が確認された。</p> <p>春季：対象事業実施区域外の綾瀬川の堤防の草地など 3 箇所計 3 例が確認された。</p>						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(16) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	ホオジロ科						
種名	アオジ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>情報不足（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>—</td> </tr> </table>	全県	情報不足（繁殖）	大宮台地	—	中川・加須低地
全県	情報不足（繁殖）						
大宮台地	—						
中川・加須低地	—						
分布状況	北海道で夏鳥、本州中部以北で留鳥または漂鳥として繁殖し、冬季は南方や平地に移動する。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長 16cm。オスは頭部が暗緑灰色、上面は緑灰色で黒褐色の縦斑がある。腹面は緑黄色。メスでは頭部の黒味がなく全体に色が淡い。</p> <p>【主な生息環境】繁殖期は山地帯から亜高山帯の明るい林、草地などに生息し、冬季は平地から低山の林縁や藪、人家の庭などに生息する。</p>						
県内での生息状況	県内には冬鳥として渡来し、県内各地の林や藪、ヨシ原、公園、人家の庭などに普通に生息する。長野県境にある奥秩父の三国峠付近（標高 1,740m）や雁峠付近（標高 1,800m）では夏季の観察記録もあるが、現在は繁殖地での情報がほとんど得られていない。		確認環境				
現地確認状況	冬 季：対象事業実施区域外の戸塚環境センター北側の排水路沿い、綾瀬川の河川敷の草地 2 箇所、綾瀬川東側の水田で、計 6 例が確認された。						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(17) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	ムクドリ科						
種名	コムクドリ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>情報不足（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>—</td> </tr> </table>	全県	情報不足（繁殖）	大宮台地	—	中川・加須低地
全県	情報不足（繁殖）						
大宮台地	—						
中川・加須低地	—						
分布状況	夏鳥として北海道から本州中部に渡来する。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長 18～19cm。オスの頭部は白く頸は赤茶色、背と腰は黒い。下面は灰白色。メスは全身灰褐色。</p> <p>【主な生息環境】平地から山地の明るい林や果樹園等に生息する。</p>		 <p>確認環境</p>				
県内での生息状況	かつては、わずかではあるが県内でも繁殖しており、1980年代初め頃までは繁殖記録があった。古い記録として、1977年6月5日に皆野町で繁殖したものは皆野駅近くにある商店の屋根に営巣していた。2010年5月秩父市の寺にある桜の樹洞で営巣した。春秋の渡りの時期には県内各地を通過するが、通過個体数も減少傾向にある。						
現地確認状況	春季：対象事業実施区域外の綾瀬川の堤防付近の落葉広葉樹にとまる1例が確認された。						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

エ 猛禽類

(ア) 保全すべき種の確認状況

現地調査の結果、保全すべき種の猛禽類は表 9.8-11 に示す 1 目 2 科 5 種が確認された。

調査時期別の保全すべき種の猛禽類の確認位置は図 9.8-4(1)～(5)、保全すべき種の生態及び確認状況は表 9.8-12(1)～(4)及び前掲表 9.8-10 (5) に示すとおりである。

ツミ、ハイタカ及びサシバについては、いずれも繁殖を示す行動はみられなかったこと、埼玉県内では春秋の渡りの時期に通過個体が県内各地で記録されることから、本調査においても通過個体であった可能性が高いと考えられる。ハヤブサについては、繁殖や採餌を示す行動はみられなかったことから、対象事業実施区域及びその周辺を生息環境の一部として利用している可能性がある。

チョウゲンボウについては、平成 31 年 2 月調査において、戸塚環境センター屋上で交尾や爪合わせディスプレイが確認された。しかし、3 月～7 月の調査において、巣材運び等の営巣を示唆する行動や巣立ち幼鳥は確認されず、対象事業実施区域内及びその近傍において営巣は確認されなかった。

また、対象事業実施区域北側のテニスコートや綾瀬川周辺の農地でハンティングが確認されたことから、調査範囲の草地等を採餌環境の一部として利用していると考えられた。

表 9.8-11 保全すべき種の確認種一覧（猛禽類）

No.	目名	科名	種名	調査範囲		調査時期							保全すべき種の選定基準												
				対象事業実施区域内	対象事業実施区域外	平成31年			令和元年				文化財保護法	種の保存法	埼玉県文化財	埼玉県保護条例	環境省 R L 2019	埼玉県RDB 2018							
						2月	3月	4月	5月	6月	7月	台大地宮						低加地須	中川	全県					
																				繁殖鳥	越冬鳥	繁殖鳥	越冬鳥	繁殖鳥	越冬鳥
1	タカ	タカ	ツミ	●				●											NT2		NT2		NT2		
2			ハイタカ	●	●		●									NT		VU		VU	DD	NT2			
3			サシバ	●	●		●									VU	EX		EX		CR				
4		ハヤブサ	ハヤブサ	●	●	●							国内		VU		VU		VU		VU				
5			チョウゲンボウ	●	●	●	●	●		●	●					NT2		NT2		NT2					
計	1目	2科	5種	5種	4種	2種	3種	2種	0種	1種	1種	0種	1種	0種	3種	3種	2種	3種	2種	4種	2種				

注 1) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 -本邦産野生動植物の種の現状- (脊椎動物編)」(環境庁、1993) に従った。

2) 保全すべき種の選定基準となる法令・文献及び評価区分は前掲表 9.8-5 のとおりである。

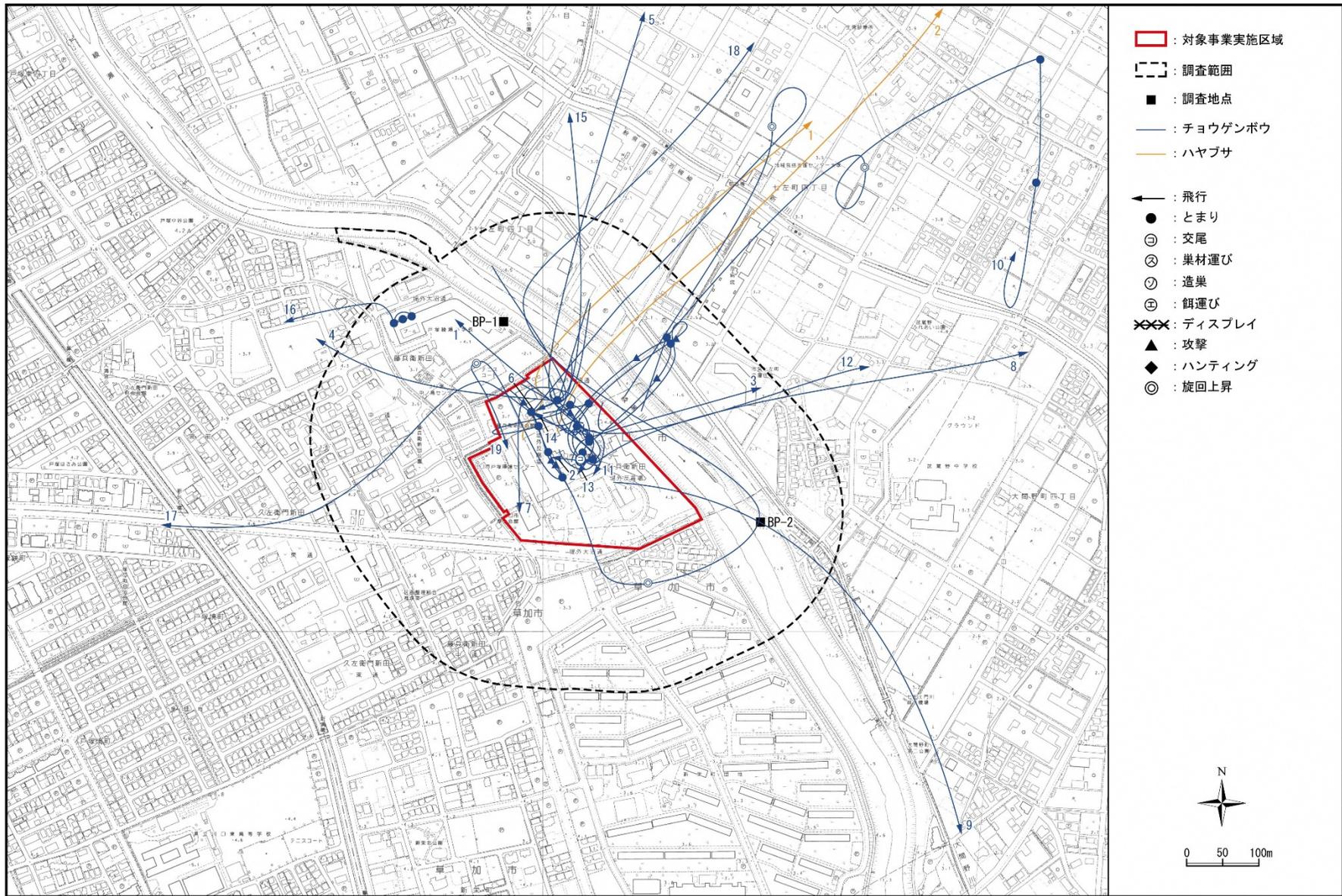


図 9.8-4(1) 保全すべき種の確認位置 (第 1 回猛禽類調査 : 平成 31 年 2 月)

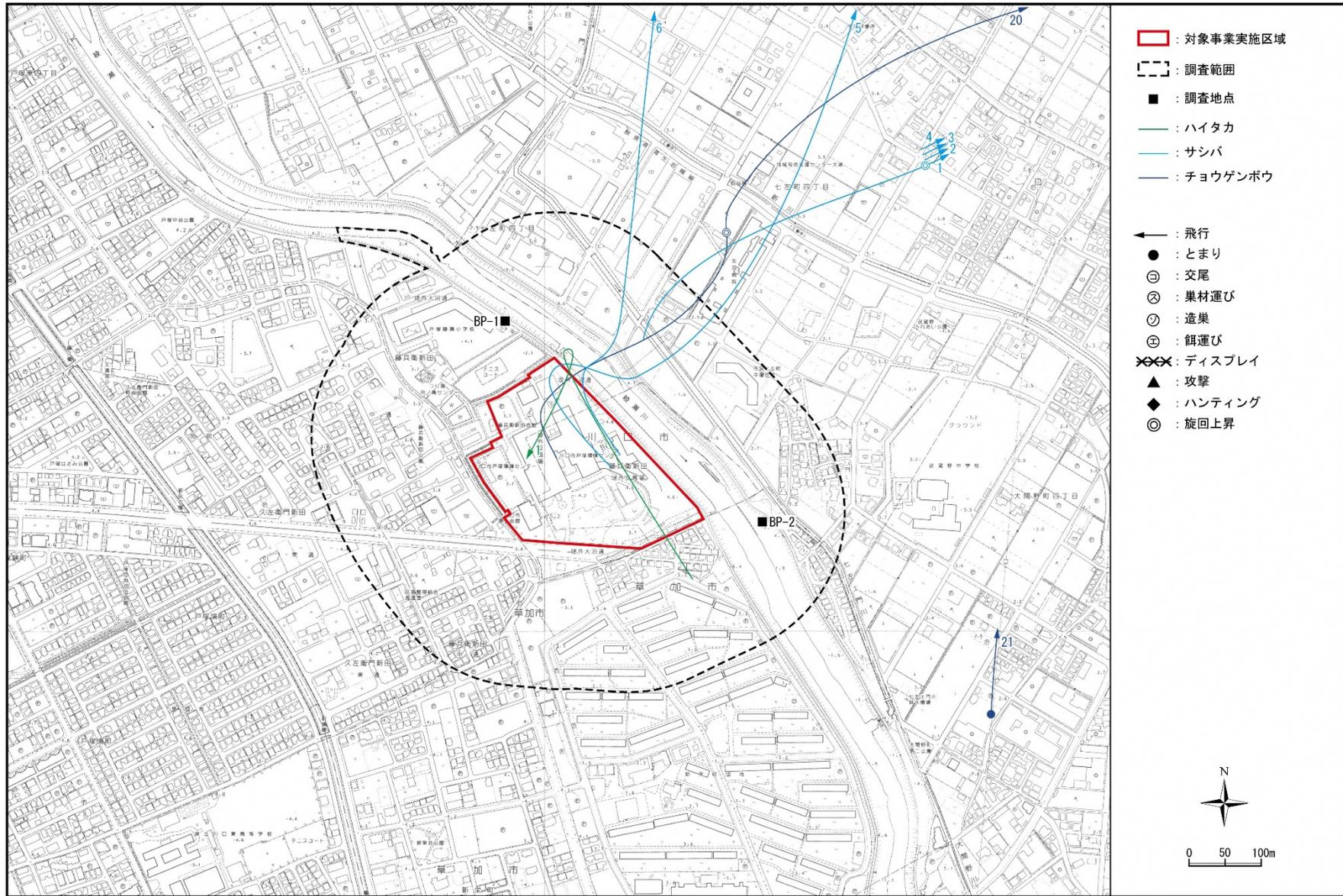


図 9.8-4(2) 保全すべき種の確認位置 (第 2 回猛禽類調査 : 平成 31 年 3 月)

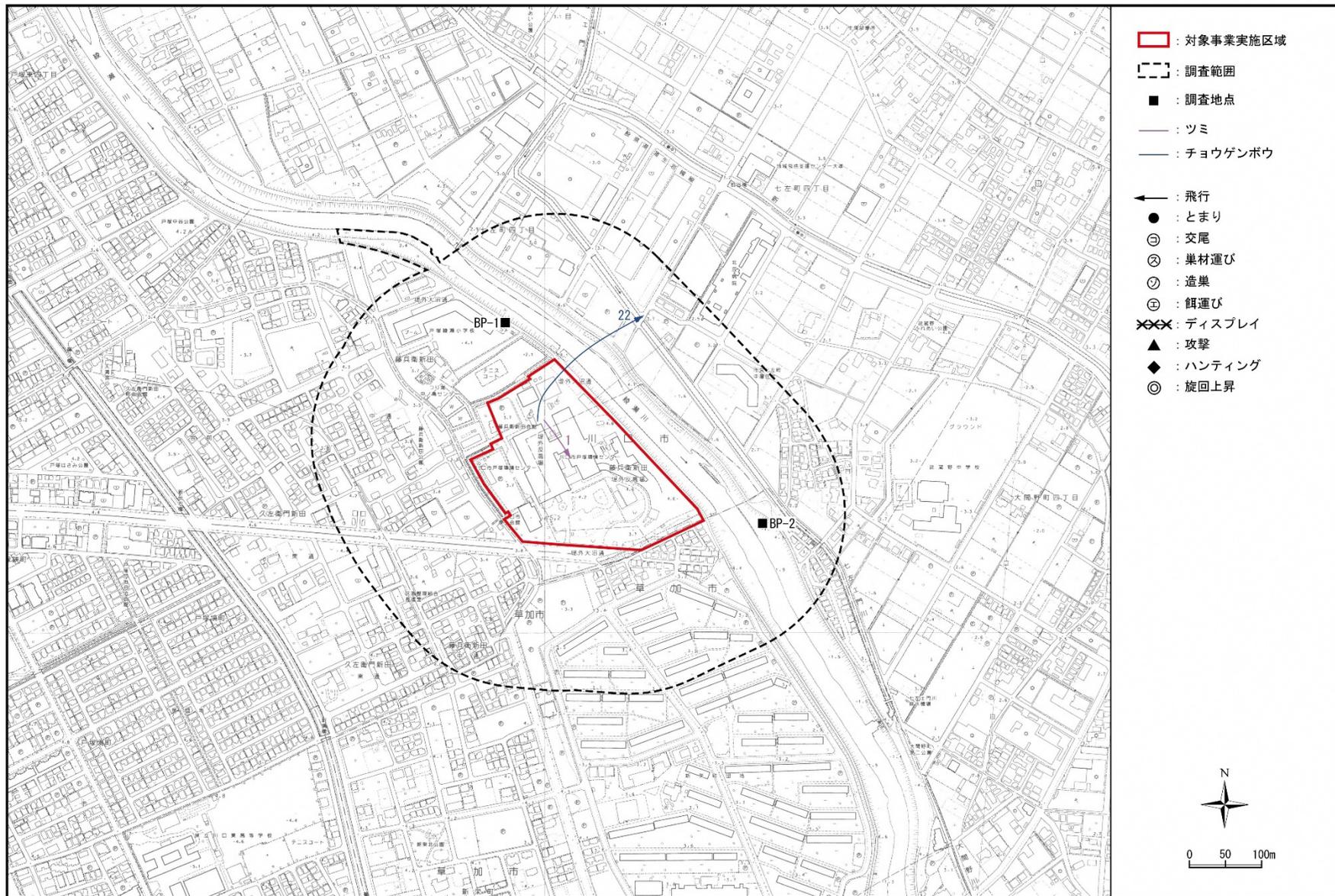


図 9.8-4(3) 保全すべき種の確認位置 (第3回猛禽類調査:平成31年4月)

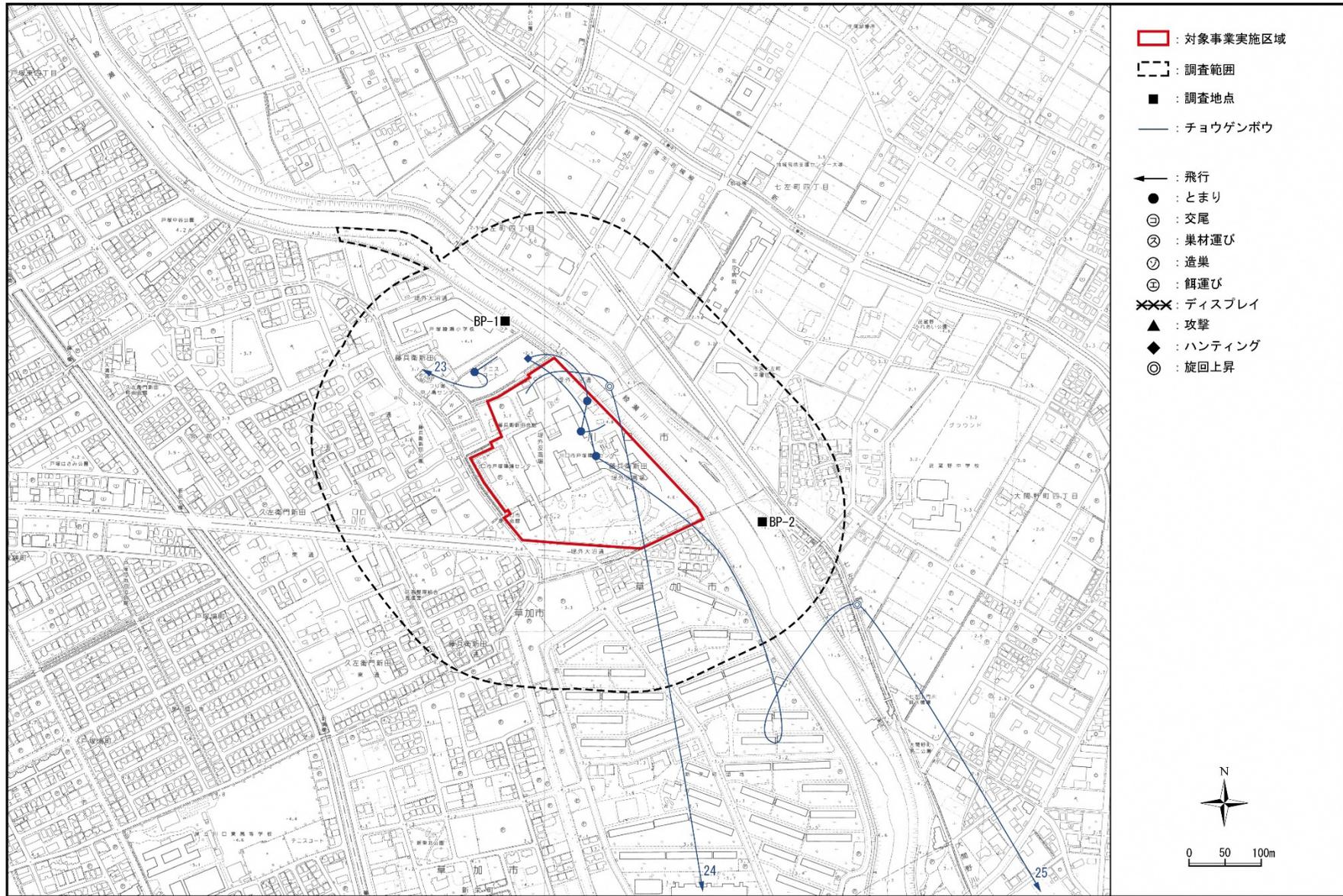


図 9.8-4(4) 保全すべき種の確認位置 (第 5 回猛禽類調査: 令和元年 6 月)